

## 発達段階別看護論実習Ⅰ（母性看護学実習）の紹介

発達段階別看護論実習Ⅰ（母性看護学実習）は、看護学科3年生の必修科目です。5領域の看護学実習（発達段階別看護論実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、メンタルヘルス、在宅看護学実習）をローテーションしています。

発達段階別看護論実習Ⅰは、2週間の実習のなかで母子の身体的・心理社会的特徴をふまえた個別の健康課題に目を向け、家族を含めた母性看護に必要な看護実践能力を修得することを目的としています。母性看護シミュレーションでは、紙上事例を基に褥婦（出産後の女性）の健康診査、意思決定支援、保健指導をシミュレーションし、看護過程を展開しています。シミュレーション後のデブリーフィングでは、シミュレーション内容をふり返り、学生同士の気づきにより自分の課題の明確化につながっています。今年度からは、昨年までの子育て支援拠点等の施設での臨地実習に加え、総合病院の産婦人科、産婦人科クリニックでも臨地実習を行っています。臨地実習では母子と対面できる貴重な機会となり、母子の様子を概観することで母子の理解が深められ、さらに母性看護シミュレーションにおいても活かされています。



[病院で新生児の健康診査を行っています]



[母性看護シミュレーションで褥婦の健康診査を行っています]

母性看護学：植村裕子、木戸久美子